

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2011年6月

No. 56



～1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association(TAAA)

2011年6月までの報告

- 1月 インターナショナルスクールなどから英語の本引取り
- 2月 南ア・ンドウェドウェにて図書教育教師研修会
- 1月～6月 南ア・ウグ郡にて農業プロジェクト実施
- 3月～6月 震災救援支援募金を開始
- 4月～6月 石巻や仙台へ子供の本約3000冊その他を送る
- 4月～6月 南ア・ウグ郡にて図書・移動図書館プロジェクト実施
- 4月 THAN 球プロジェクトが南アのためにサッカーボール、774個を収集
- 5月 石巻・仙台などを訪ねる

目次	40校で図書活動/25校で菜園活動(平林薫)	2
	TAAA 代表交代のご挨拶(久我祐子・野田千香子)	5
	THAN 球プロジェクト、サッカーボール774個収集・寄贈	5
	TAAA の被災地支援「本と友だち」キャンペーン(久我・北爪・高野)	6
	南アのハウテン州移動図書館の報告	8
	PBL を通じて学んだこと(後藤沙英)	9
	2010年 TAAA 決算書(西村裕子)	10
	主な活動	11
	寄付・会費・本などを下さった方々・ルイボスティ	12



ウグ郡ヒバディーン地域のゴベラ小学校の菜園にて

40校で図書活動/25校で菜園活動

平林 薫

<東日本大震災>

3月11日の東日本大震災に関しては、南アフリカにおいても連日報道があり、図書活動や菜園活動に参加している学校の教師や州教育省関係者より被災された方々へのお見舞いのメッセージが多数届いた。プロジェクトや物資が日本からの支援であることを認識し、日本への感謝の気持ちと親近感を抱いている教師たちは大変ショックを受けていた。在南ア日本大使館の草の根支援プログラムで新校舎を建設したズバネ小の教師からは、“朝礼時に日本で起きたことを生徒たちに話し、みんなで日本人たちのためにお祈りをしました”というメッセージをもらった。南アフリカのたくさんの人々が、被災された方々へのお見舞いと、復興に向けてエールを送っている。



3月末、ダーバンのビーチで日本を思い祈りの会が行われた

<ボランティア貯金図書プロジェクト>

2009年4月に開始された、クワズルーナタール州・ンドウェドウェ地域での図書活動支援プロジェクトは、2011年3月末で完了となった。初年度は30校、2年目は10校追加して40校を対象とし、全校に学校図書室を設置することができた。2010年度のプロジェクトでは、図書室に改装するための空いている教室がない学校7校にコンテナを、1校にプレハブ建物を寄贈、内部に本棚を設置し、図書室として利用されている。本と本棚の寄贈については、それぞれの学校でスペースや蔵書などの状況が異なることから、各々予算を決めて、各校が図書室に必要な本や備品を注文し、プロジェクトで購入する方法をとった。学校によってはまだ本や教材が十分とはいえないが、図書室の基礎ができたことで州教育省などからも本や教材が届き、リソースセンターとしての機能が整い始めている。学校では時間割を決めて各学年の生徒が図書室で読書しており、家でも読書ができるよう、希望する生徒に貸出しも行っている。また、特に読書の好きな生徒を中心に図書クラブも設立され、図書室の管理や読書の促進など活動を行っている。図書室設置は各校にとって長い間の願望であり、日本からの支援に多くの感謝のメッセージが寄せられた。

移動図書館車“ITHEMBA きぼう号”は各校を定期的に巡回訪問し、本の貸出しを行った。教師は、学校図書室では入手できない本や資料をバスから借りて授業に活用し、生徒も絵本や小説だけでなく、参考書や百科事典などを借りてリサーチや研究発表を行った。英語の本はほとんどが日本から送られたものを利用し、現地語であるズルー語の本は、現地の出版社から購入してバスに搭載した。移動図書館車の定期巡回は、教師や生徒が本に親しむきっかけを作る役割を果たすことと、図書室のシステムを学ぶこと、また、学校図書室にはまだ蔵書が少ないことから、様々なジャンルの本にアクセスすることができるという利点がある。

プロジェクトでは1学期に一回、年4回教師対象の研修会を開催し、図書室の利用法や管理の仕方、本の分類や選び方などの指導を行った。今年2月に開催された最後の研修会では卒業式を行い、修了証書を手渡し



写真左：ズバネ小にて、TAAAから送られた本を読む子どもたち

た。担当教師は学校内で他の教師と知識や情報を共有し、クラス担任の仕事を持ちながらも、全学年の生徒が図書室を利用できるよう、図書室の整備、管理に尽力している。各校では、図書活動として定期的に生徒に読書感想文や物語を書かせたり、英語およびズールー語の本を音読させたりしており、読み書き能力やコミュニケーション力の向上が確認されている。プロジェクトマネージャーと学校巡回指導員は訪問時に学校のニーズや問題を把握し、適切なアドバイスやサポートをした。また、研修会で指

導したことを実践してもらうために、図書専門家が学校訪問に同行し、本の整理分類方法、図書室の管理の仕方などを指導した。活動が継続、発展していくことを目指して、事業終了までに対象校を地域別に7グループに分け、情報交換やサポートをし合う体制を作った。

図書活動促進イベントは、日程や内容を各校で独自に計画し、開催された。各校は、“図書週間”などを設け、読書の大切さや楽しさを歌や詩にして発表したり、代表の生徒が本を音読したりして、図書活動の促進を行った。

コンテナ図書室を設置した学校ではモチベーションとなったようで、特に活動が活発に行われている。シャラガシェ小では担当教師を中心に、図書クラブのメンバーが“図書室利用のルール”を作成し、各学年の生徒が熱心に本を読んでいる。7年生の女子生徒はプロジェクトへの感謝の気持ちを詩に書いてくれた。また、近くの高校の生徒（卒業生）の図書室利用も開始しており、将来は地域図書室としてコミュニティの人々にも開放したいと意欲的だ。クワノンパンダ小では、7年生のグループがバスから日本に関する本を借りて、“History of Japan”という研究発表を行った。

倉庫として使っていた教室を図書室として改装したボヴンガネ小は、プロジェクトからの寄贈と校長やPTAの自助努力により、立派な図書室を設置することができた。同校では図書クラブのメンバーを中心に活動を推進しており、生徒たちの学力向上を確認すると共に、生徒たちが読書を楽しむ姿が見られる。

事業終了後に担当教師からバスが来なくなり生徒たちがさみしがっているという話を聞いた。ンドウェドゥエ地域の各校からは移動図書館車の巡回や学校図書室への支援を継続して欲しいという要請もあったが、州内には図書室もなく、教材も不足している学校がまだまだたくさんあることから、事業終了後は他地域（ウグ郡）で活動を行うことを了承してもらった。

<図書の寄贈>

昨年末に日本からダーバンに到着した本は、ウグ郡イジンゴロウェニ教育センター内に保管され、2月以降、郡内各地域の学校に配布、寄贈されている。センターに本を引き取りに来た校長や教師たちは、本や教材の質の良さと豊富な量に驚き、“学校には何もないんです。これらの本でコーナーライブラリーを始めることができるととてもうれしい”と話していた。また、サッカーボールを見た途端、遠くにいた教師も駆け寄ってきて奪い合いになるほどだった。ウグ郡内の学校に逐次サッカーボールを届けているが、特に男子生徒には何よりうれしいプレゼントのようである。“ぐりとぐら”のズールー語訳に続き、第二弾“そらいろのたね”も各校で大変喜ばれている。

<JICA 学校を拠点とした地域農業促進プロジェクト>

JICA 委託事業である菜園プロジェクトは、昨年 7 月よりクワズルーナター州ウグ郡の 3 地域の学校とコミュニティーで行われており、活動は順調に進んでいる。2 月には、小学校および高校の教師を対象とした研修会を 3 地域の中心となる学校において開催した（2 月 17 日/ドウドウウ 7 校、2 月 22 日/ヒバディーン 9 校、2 月 24 日/プンガシェ 9 校）。研修会では、基本的な農業の知識、良質な土壌の作り方の指導、栄養に関する講義、苗床の作り方の実習などが行われ、3 地域の対象校全校から教師が出席し、活発な研修会となった。ヒバディーン地域では、対象校から情報を得た新規 2 校が飛び入りで出席し、プロジェクトに参加することになった。農業専門家リチャード・ヘイグ氏の講義は出席者にとって学ぶことが多く、また、氏が手作りしたヘルシーなランチ（スモークチキン、ピクルス、ホームメイドパン、ケーキ、ジュースなど）は大好評だった。高校の担当教師は農業科学の教鞭をとっているためかなりの知識は持っているが、有機農法や栄養に関してなど新規分野もあり、また実習を十分に行っていないことから、研修会に参加することになった。高校の生徒に対しては、学校訪問の際に菜園内で直接研修を行うことになった。



インブレロ小にて、苗床作りの実習をする教師たち

2 月にはまず指導員と共に、昨年度に配布した苗の生育等をモニタリングする巡回訪問を行い、進捗状況の確認、アドバイスをした。多くの学校がキャベツの虫害に苦勞しており、研修会でもいくつかの解決策を話し合った。研修会開催後、各校で苗床作りが始まったが、疑問や問い合わせのあった学校を中心に再度訪問し、アドバイスをした。各校では土壌などの環境の違いや、灌漑水の確保、保護者の協力など状況の要因から、すでに進捗に差がでてきている。前期に配布した苗は収穫を学校で利用し、余剰を販売できるほどの学校もあったが、保護者の十分な協力が得られず、休暇中の収穫が行えなかった学校もあった。活動を積極的に進める上で保護者もしくは地域住民のサポートは欠かせないため、今後、学校や地域住民と十分に話し合い、休暇中の畑の世話に関して最善の方法を考えていきたい。また、地域へ菜園活動を広げていくためには保護者の活動への参加が重要であることを改めて研修会で確認し合った。

3 地域のコミュニティーグループに対しては、それぞれ環境が異なるので、状況に応じて適切なアドバイス、指導を心掛けた。ヒバディーングループは前期、カボチャに似たバターナッツの栽培をしてマーケットで販売する計画をしていたが、残念ながら天候不良で販売に適する収穫が得られなかった。年末の大雨で損傷した灌漑用パイプの補修を支援して、冬の乾期に備え、キャベツの栽培が始まった。プンガシェグループは前期に配布の苗が順調に育ち、収穫を家庭で利用した。

休暇中に教師、保護者、地域住民が畑の世話、管理をきっちりと行っていた小学校は、休暇明けに収穫を給食に利用し、余剰分を販売した学校もあった。活動が大変活発に行われているヒバディーン地域のロゼッテンヴィル小では安定した収穫があり、私自身も新鮮なナスとチリをビニール袋に詰め放題で 10 ランドで購入した。ナスは給食のスープにも利用されているが、普段は地域の人々にあまりよく使われる野菜ではない。今後、様々な野菜を育てると同時に、その使い方についても情報交換など行っていきたい。また、ヘイグ氏のアドバイスを得ながら、その土地で伝統的に栽培されていたが現在はあまり利用されていない野菜の栄養価などを見直し、次の世代に伝えていく活動も行っていきたいと考えている。



学校給食に利用したあと、販売して学校の資金にできた

5 月末には私自身ダーバンからヒバディーン地域に転居を予定しており、菜園プロジェクトおよび移動図書館車による図書プロジェクトの活動を継続して行う。

TAAA 代表新任のご挨拶

久我 祐子

私、久我祐子は、2010年12月12日のTAAAの総会で総意をえて、2011年4月からTAAAの代表の大役をおおせつかることになりました。

前任者である野田千香子の主導で18年間築き上げてきたTAAAの代表になることは、身が引き締まる思いです。

私は前任者と比べると、はなはだ微力ですが、「南アフリカと一緒に歩みたい」、「南アフリカの子どもたちの教育を支えたい」という強い気持ちで前進してまいります。「歩む会」の代表として、頼りなげな歩みになると思いますので、皆さん、是非今後一層TAAAを支え、一緒に歩いていただけると嬉しいです。

何とぞ 前任者同様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表辞任のご挨拶

野田千香子

1992年「アジア・アフリカと共に歩む会」設立以来、今日まで私が代表を勤めてきましたが、このたび代表を久我祐子が勤めることになりました。ANC東京事務所以来、南アに関わり、立ち位置をしっかりと持った、実力のある久我祐子が代表となり、今後のTAAAの新たな展開が期待できると嬉しく思っております。皆さん、どうかこれからもご支援やご指導を下さいますよう、よろしくようお願い申し上げます。

なお、私は今後もTAAA事務局長として、活動に関わっていきます。

TAAA 新人事 2011年4月より

会長/浅見克則

代表/久我祐子

副代表/下谷房道

副代表/丸岡晶

事務局長・会計/野田千香子

監査/北爪健一

THAN 球プロジェクト サッカーボール 774 個を収集・寄贈

多摩大学の学生さんの森直之さん、野田涼平さん、堀田浩平さんたちが中心となってサッカーボールをこんなに集めてくださいました。TAAAを通じて、本と一緒にクワズルーナター州の学校へ送ります。このボールで練習した少年たちが10年後、南アのサッカー世界一を実現するかもしれません。

2010年9月5日…エフチャンネル様サッカーボール**22**個回収

10月20日…横浜FC様からサッカーボール**37**個4回収

10月23日…鶴沼高校サッカー部からサッカーボール**10**個

10月23日…イベント当日サッカーボール**26**個回収

10月25日…多摩大学目黒高校サッカー部からサッカーボール**82**個回収

11月10日…横浜FC様からサッカーボール**10**個回収

11月12日…野田涼平様からサッカーボール**1**個回収

12月8日…フットサルステージ多摩からサッカーボール**9**個回収

12月12日…浦和学院高校**39**個サッカーボール回収

2011年1月12日…工学院高校**15**個サッカーボール回収

ムチャトウ小にて、昨年送ったボール

1月17日…河津様から**4**個サッカーボール回収

2月6日…横須賀市サッカークラブから**411**個サッカーボール回収

2月6日…三浦市サッカークラブから**108**個サッカーボール回収



合計**774**個

新品サッカーボール**10**個、TAAAで購入**30**個

空気入れ**8**個、TAAAで購入**50**個

THAN 球プロジェクトのサッカーボール収集は進行中。まだまだ増えていきます。

THAN 球プロジェクトのブログは、こちらです。ご覧ください。 <http://ameblo.jp/morinao1/>

TAAA の被災地支援 「本と友だち」キャンペーン

久我 祐子

3月11日に、想像を絶する大地震が東日本を襲い、それに伴う津波による自然災害および原発事故による人災が起き、日本は前代未聞の複合的大災害に見舞われました。地震発生後3ヶ月ちかたつた今でも、被災地では多くの方々が避難生活を余儀なくされ、今後の生活手段を奪われたままになっているのは、ご承知の通りです。

産業のあり方、エネルギー問題、ライフスタイル、自然との関わり方、人間同士の関わり方を含め、日本人は、いや人類は、これからどのように生きていくべきかという根元的な大問題を、私たちは叩き付けられています。

TAAA は、アパルトヘイト後の南アの社会問題を、自分達の問題として考え、支援しようと、未来を担う子どもたちへ英語の本を送りつづけてきました。今回、突如国内で起きた大災害に直面し、戸惑いながらも、会として何かしなければという気持ちに押され、二日後の3月13日には緊急募金を始めることにしました。人命救助を最優先させる埼玉拠点の市民キャビネット災害支援部会と、災害弱者への支援を最優先させるホームレス支援全国ネットワークを支援してきました。しかし、地震発生後一ヶ月近くなると、緊急支援期を過ぎ、被災地でのニーズも多様化してきました。4月10日に会として改めてミーティングを開き、TAAAらしい支援はなにか、TAAAだから出来ることはないだろうか話し合った結果、絵本・児童書、および図書カードを集めて被災地へ送る「本と友だち」キャンペーンを始めることになりました。

次に送り先をどこにするかを考えました。行政や大手支援団体の手が届きにくい、小さな避難所や自宅で避難している方々へこそ TAAA のような小さな団体が手をさしのべるべきではないか。そのように考えている時に、知人から石巻で自らが被災者でありながら、自宅避難所や自宅託児所を支援している佐々木智恵さんという女性を紹介していただき、そこを中心に本を送るようになりました。

TAAA 会員からの友人・知人への直接の呼びかけと、ネット上での呼びかけだけで、5月21日の時点で、2,300冊以上の絵本や児童書と大量の文具や玩具が集まりました。すでに818冊の本と文具・玩具、サッカーボール(THAN 球プロジェクトさん寄贈)を詰めた段ボール28箱を石巻へ送っています。サッカーボールを手にとったとたん、弾けた男の子達、絵本や文具を「思いがけない入学祝いだ」と大喜びしてくれた新一年生と親御さん達のことなどを、佐々木さんからご報告をいただいています。

5月27日には、TAAA 会員5名がいよいよ石巻と仙台へ赴きます。大型バンに、1449冊の絵本・児童書、文具、玩具を梱包した段ボール約70箱を詰め込み、石巻へ運びます。届け先は、佐々木さんが支援している自宅避難所や託児所数カ所、発達障害のお子様を通う石巻ひばり保育園、日頃子どもへの支援活動をしているNPO法人石巻スポーツ振興サポートセンターとNPO法人宮城こどもネットワークなどです。

現地では、届け先の方々と直接お話をし、現地の様子やニーズをお聞きしながら、これから TAAA としてどのような支援をしていくべきなのか、今回の未曾有の国内問題の最中、会としても個人としても、何が出来るのか、何をすべきなのかを、日頃支援している南アの子どもの問題とも絡め合わせながら考えていきたいと思っています。すぐに答えは出てこないかもしれませんが、あせらずゆっくりと考えていきたいと思っています。今後とも、暖かいご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



図書の方

北爪 健一

未だ集計はしていないが、当支援活動へは全国70人以上の方々から図書約2300冊、文具と玩具など寄贈を受けました。募集のPRは2系統で一つはTAAのホームページ、もうひとつは会員・高野さんの団体のPRであり、短時間に多くの図書を収集したのもチャンネルを上げた効果と見ることができる。

そこで、図書収集担当として事前に考えたことを述べる。先ず、一つには図書の支援者TAAを明記することであった。理由は、被災地で支援図書が不要物[たらいまわし]になった場合の始末であり、明記することにより回収が可能となる。次に必要と考えたのは、避難所閉鎖(喜ばしいこと)にあたり、図書が置き去りされることで、図書一点ごとに「気に入ったのがあったら持ち帰って」という小さなシールの貼付であった。しかし、収集した図書一点一点に貼る事は時間の制約から叶わなかった。代わりにダンボールには単位に大きなシール「ともだち文庫」の大きな文字と『東北の海は世界へ』そして当会URLが貼られた。

将来、子ども達が震災の記憶と共に読んだ本も思い起こして呉れたらうれしい。



「本と友だち」キャンペーン

高野 千恵美

東日本大震災で被災者となった子供たちへ、絵本や児童書、文具やおもちゃを送るキャンペーンを行う中で、私は現地で活動して下さる佐々木さん、佐藤さんへ配送する為の物資の協力を呼びかけ、集まった物資の仕分け・箱詰めのお手伝いしました。

私や娘の友人たち、甥っ子の所属するサッカークラブの保護者の皆様、またボランティアプラットフォームのサイトを通じて全国の方々から沢山の物資が届けられました。絵本やおもちゃを受け取る子供たちにあたたかいメッセージカードを添えて下さった方。ニュースを見ていた子供が「地震にあった子供たちに喜んでもらえるかな?」と本を詰めました、と送って下さった方。絵本などと一緒に、TAAのHPをみて南アの子供たちへと「英語の本」や「ぐりとぐら」の本を同梱して下さいました。多くの方々のご協力に感謝致します。



★TAAが行なった「地震被災者への緊急募金」に寄付を下された方々(3月13日～5月15日)

西村裕子 下谷房道 浅見克則 北爪健一
野田千香子 野田茂徳 米山周作 久我祐子
高野千恵美 上林潤子 津山直子 荒川能子
大久保忠人 上林野恵 大友深雪 平林薫
藤原和恵 中野敦子 丸岡晶 下谷真澄
平井涼子 辻井剛 牧野久美子
鯨井幸一 山下八千穂 青木美由紀 宮本真一
(募金の合計 442,915円)

★被災地への支援物資として子供向けの本やおもちゃや文具などを下さった方々のお名前は、P12に掲載させていただきました。



★被災地へ送る子供向けの本や玩具などの収集は、いったん締め切りました。

★災害支援募金と図書カードの募集は引き続き、行なっております。募金はTAAの郵便振替口座へ「災害支援」などと通信欄に書き添えてご送金くださいますよう、お願いいたします。

南アのハウテン州移動図書館の報告

TAAA が送った三菱の移動図書館車は、1999 年からハウテン州教育省の運行で、プレトリアにある州教育図書館が管理し、ジョハネスバーグ北部を含むハウテン州の広範囲で巡回しています。

地元の教師や生徒から「サンシャイン」と呼ばれるこのバスは、ハウテン州の強い日差しの下で 10 年以上走り続けています。

ハウテン州移動図書館車プロジェクトの

報告 (2010 年度) から

対象地域 ハウテン州広域

対象校・生徒数 28 校 (小学校) 13、950 名

28 校中、図書室のある学校は無いとのことです。

学校給食の行われていない学校も数校もあります。学校での本の貸し出しは手作業。その後、図書館においてオンライン管理。

移動図書館用の蔵書数 は 300,000 冊 (ハウテン州教育図書館蔵書数)

生徒 (おもに 5 歳~14 歳) に人気がある本 は絵本、小説、補助教材、雑誌、辞書・事典

不足している本 は補助教材、辞書・事典

教師たちの関与は非常に協力的です。教師たちには授業用の教材やポスターや CD、ビデオなども人気があり、移動図書館に積んで貸し出しています。

プロジェクトの問題点 は読書文化・習慣がなかなか育たないことです。

スタッフ不足、車両のコンディション も問題ですが、巡回は実施できています。

一年間の進展

2011 年 4 月より新しく 6 校が加わります。新しい学校は図書サービスの研修を受けました。

(上林潤子訳 野田千香子編)



PBLを通して学んだこと

尚綱学院高等学校 後藤 沙英

みなさん、こんにちは。私は宮城県に住む高校2年生の後藤です。私の学校の授業に取り入れられてる、PBL というものがあります。それは、何かについて調べた事を人前でプレゼンのようなかたちで発表するというものです。私はこの授業でアフリカと日本の関わりについて調べていて、そんな時に TAAA の組織を知り、興味をもち、調べさせていただくことになりました。調べていくうちにさまざまなことを感じ、学ぶことができました。

一つ目はアパルトヘイトについてです。授業で軽く触れていたアパルトヘイト、今回自分で本を使って調べました。何年も前にアパルトヘイトは法律上から撤廃されましたが、現在に至ってもその影響を受けて貧困から抜け出せてない人々がいることを知り、アパルトヘイトがどれだけひどいものだったかということ改めて思い知らされました。

二つ目は TAAA についてです。本をただ配布しているだけでなく移動図書館車で学校を巡回したり、本を保管する本棚や図書館までも設置していることを知りました。TAAA のホームページで見た、本を手にとっている子供たちはみんなとてもいきいきしていて笑顔が輝いていました。

私は何をしているわけではないのに自然に笑顔がこぼれました。ですがその反面、本をきれいな状態で安心して置くことができる場所さえも少ないということがわかり残念な気持ちも抱きました。

また、今回は TAAA の鯨井さんにメールを通して TAAA についてお話をさせていただくことができました。本を寄贈してくださる年齢層も老若男女問わず幅が広いそうで、身近に感じ簡単に参加することができるプロジェクトなのかなと思いました。

さらに、TAAA は単に英語の本を贈るというだけでなく、教育を受けた子供たちが大きくなり、やがて社会の中心を担えるようになったらどんなに素晴らしいことだろう、そんなささやかな想いで支援を続けているとお話してくださいました。

このプロジェクトに関わっている方にお話を聞いて本当に良かったです。

また、発表内容を更に深めることができました。鯨井さんには感謝しています。ほんとうにありがとうございました。

今回の発表で私は上記にあげたことをクラスみんなに伝え、また、やはり本が身近にたくさんあること、本を簡単に読めること、それがどれだけ幸せで大切なことかということ改めて自分自身実感させられたことを伝えました。

クラス内の発表ということで規模は小さいと思いますが、私の話を聞いてくれたみんなに少しでも TAAA の存在や活動、本の大切さが伝えられていればいいなと思っています。TAAA というプロジェクトに会えて良かったです。

つい最近、私は東日本大地震の被害に遭いました。ライフラインがしばらく途絶えたり、十分なものが食べられなかったりと当たり前でできていたことができなくなっていました。このような生活よりもっと辛い生活を毎日送っている人たちが世界中にたくさんいると思うと全然苦痛ではありませんでした。命が助かっただけでどれだけ幸せなことか実感しました。

国境を越えたつながりはとても素敵なことです。これからもアフリカの子供たちに笑顔をあげてください。応援しています。アフリカだけでなく全世界の人々が平和に過ごせますように日々願っています。

第2回 【サン人・コイコイ人・バントゥー人】

1994年5月に成立した、民主南アフリカ政府にはある特別な、仕事が待っていました。

それは、民主・全人種平等社会となった南アフリカに相応しい、国史を再構築する、というものです。

日本語の文献でもそうですが、南アフリカの歴史が語られる場合、1652年の白人の喜望峰上陸からスタートさせる傾向が圧倒的でした。その大きな理由の一つとして、白人が南アフリカに入植する以前は、南部アフリカは無文字社会だった、ということが挙げられます。しかし、黒人は、口頭伝承で自らの歴史を語り継いでいました。

当然のことですが白人の入植以前より、南アフリカには先住民が住んでおり連綿とその歴史を刻んでいました。ところが、アパルトヘイト時代の歴史教科書には、「白人と黒人は同時期に現在の南アフリカに達した」と、まるで神話めいた記載がなされていたのです。そうした、誤った過去と決別するためにも、南アフリカの先住民のことを学ぶことは、必要不可欠なことであると同時に、“相応しい国史の再構築”のために大変重要なことなのです。

南アフリカの先住民として『サン人』『コイコイ人』『バントゥー人』が挙げられます。以下、個別に述べていきたいと思えます。※バントゥー人は明確な意味での先住民では無いと思われませんが、白人が定住したのは今から360年前に過ぎないことを考えると、相対的に先住民と考えるのが自然です。

紀元前数千年の太古から、南アフリカには、サン人と呼ばれる狩猟採集民がいました。肌の色は薄褐色で小柄な人でした。独特の舌打ち音（クリック）を伴う言語を話し、木の実を採取したり小動物を捕獲して暮らしており、食糧や水を求めて移住生活を行っていました。また、彼らは芸術的なセンスに恵まれていたようで、素晴らしい岩面絵画や岩面彫刻を残し、保存状態の良いところでは現在でも観ることができます。そして、特記すべきこととして、彼らは、アパルトヘイト時代、政府が白人と分類した全人口の14%にのぼる人たちに遺伝子を提供しているのです（注）。

今から、2500年前ほどに、サン人の生活様式に多大なる影響を与える出来事が起こります。狩猟採集の他に羊を飼育する生活様式が、北方から伝わってきたのです。牧畜の概念です。牧畜民は、自称としてコイコイを名のりました。容貌はサンの人と似ており、両者を併せ、コイサン人とも総称されます。

牧畜は、二つの大きな変化をもたらします。一つは、私有財産の考え方が生まれたことです。家畜を財産とみなしたコイコイ人は、他人より多くの羊を所有したいという欲求を持ち始めます。集団内で、貧富の格差が生じたのです。二つ目は、牧畜のおかげでコイコイ人は、サン人より確実に食糧を調達できるようになりました。しかし、牧畜は、狩猟採集より多くの労働時間をとられるため、コイコイ人は、サン人ほど絵画や彫刻を創る時間がなかったようです。

そして、今から1700年前、現在の南アフリカの人口の8割以上を占めるアフリカ人（例えばズールー人、コーサ人など）の祖先である、バントゥー人が暮らし始めました。彼らの起源は、赤道周辺の農耕民だったと考えられています。彼らは、濃い褐色の肌をし、コイサン人より背丈が高くがっちりとした体型でした。ちなみに、バントゥーとは彼らの言葉で「人間」を意味します。彼らは、サン人のように狩猟をし、コイコイ人と同じく、牧畜を行っていました。家畜の多くは牛でした。しかし、決定的に彼らと違ったのは、『鉄器』や『陶器』を使い、『農耕』を行っていた、ということです。彼らの社会では男女の仕事がはっきり分かれていました。そして、家族制度は父系制で男性優位が確立されています。民族的な儀礼が大変重んじられ、レボッロと呼ばれる成人式の学校（イニシエーション）を経ないと、子供は成人になれませんでした。そして彼らの社会では結婚が大変重要な事柄でありました。結婚の前提として、両家の間で財産の交換がつづき、それには、花婿の家から花嫁の家への家畜（牛）の移動が含まれました。この慣習をロボラ（またはボハリ）と呼びます。日本語では、『婚資』と表記され、一種の結納制度のようなものです。アフリカでは、一定の金銭や家畜などを花嫁の代償として妻側の親族に払うことで結婚が成立することが多いのです。

彼らにとって、婚資の関係上最も重要な財産は牛でした。そこで、牛をたくさん所有するものもいれば、一頭も持てないものも現われ、主従の関係が出来上がっていくのです。そして、牛をととても多く所有するものの中に『首長』と呼ばれるものが現われ、首長国を構成していきます。しかし、その首長国はある程度民主制度が確立されており、政治的な集会では、誰でも自由に発言できたといわれています。また、宗教的儀礼が重んじられ、旱魃の際は雨乞いの儀式を行ったり、牛が疫病で多数死ぬと、妖術師の仕業だとして、彼を処刑したりしていました。

彼らの社会は大変ダイナミックに富んでおり、小首長国が離合集散の繰り返しを重ねていきます。やがて、特に政治的な指導力に長けた首長が現われ、強力な中央主権的国家（王国）を築き上げていったのです。その一番の例が、シャカ王が率いたズールー王国と言えるでしょう。

なお、コイサン人とバントゥー人の居住地域ですが、南アフリカは東部が比較的降水量が十分であるのに対し、西部は降雨に恵まれていません。したがって、農耕に適する東部をバントゥー人が占め、雨量が少なくても狩猟採集や牧畜が可能な西部に、コイサン人が住んでいました。

1652年に白人が喜望峰に上陸して、始めて遭遇したのが、ケープにいたコイコイ人だったのです。

2010 年度(平成 22 年度)TAAA 決算書

I : 一般会計

(収入の部)

寄付金		3,068,293
会費	1. 会費	150,000
	2. 賛助会費	30,000
TAAA 南ア事務所寄付金その他		880,900
物品販売収益		90,810
助成金	1. ボランティア貯金	9,901,000
	2. ひろしま祈りの石	1,500,000
	3. 国際協力機構	7,069,563
受取利息		1,455
	計	22,692,021

(支出の部)

国内図書館車関係費	1,604
国内図書関係費	396,236
南ア事務所活動費	18,229,913
南ア視察費	618,445
通信費	110,140
事務費	301,561
旅費交通費	66,240
印刷費	94,802
水道光熱費	10,845
雑費	33,000
租税公課	20,600
ボランティア貯金返還金	1,017,444
	計 20,900,830

(南ア事務所活動費内訳)

	入金	出金	残高
前期残高			2,091,340
今期活動費送金	17,349,013		
南ア現地収入	880,900		
1. ボランティア貯金事業		11,248,066	
2. 国際協力機構		6,951,113	
3. 南アTAAA活動諸費		1,400,630	
今期残高			721,444

II : 収支決算書

		3,684,408
+	前期繰越金	
	一般会計収入	22,692,021
-	一般会計支出	20,900,830
	次期繰越金	5,475,599

0

2011 年 5 月 15 日

会計: 西村裕子

会計監査: 北爪健一